

伊曾保物語いそほものがたり

はととありのこと

ある川のほとりに、あり、遊ぶことありけり。
にわかには水かさ増まさりきて、かのありをさそい流る。うきぬしずみぬするところに、はと、こずえよりこれを見て、「あわれなるありさまかな。」と、こずえをちと食い切つて、川の中に落としければ、あり、これに乗つてなぎさに上がりぬ。かかりけるところに、ある人さおの先にとりもちをつけてかのはとをささんとす。あり、心に思うよう、「ただ今の恩おんを送らんものを。」と思い、かの人の足にしかと食いつきければ、おびえあがつて、さおをかしこに投げすてけり。そのものの色やしる。しかるに、はと、これをさとりて、いづくともなく飛とび去りぬ。

そのごとく、人の恩を受けたらん者は、「いかさまにもそのむくいをせばや。」と思うところざしをもつべし。